



巻 頭 言

校長会の連携で子ども達に夢を

両沼小学校長会長 神内透
(会津坂下町立坂下東小学校)

新学習指導要領の全面実施と教員の働き方改革への取り組みをいかに進めるかという課題等が山積する中、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止への対応で始まりました。国の緊急事態宣言の対象地域が全国に拡大されたことを受けて、本県でも各学校で臨時休業の措置がとられました。

その後、新型コロナウイルス感染拡大に備えて、各学校では、国や県の通知等を受け、様々な取り組みをしてきました。まず、クラスターを防ぐための「3密」防止の取り組み。体温計や消毒薬、マスクの不足には、関係機関と連携を図り対応にあたりました。不足を心配した個人や企業の方々から手作りのマスクや消毒液等の寄付を、本校を始め多くの学校でいただきました。このご厚意は、とても有り難いものでした。お陰様で、アルコールや次亜塩素酸水等を使用しての消毒の徹底を進めることができました。

ソーシャル・ディスタンスという概念が生まれ、「新しい生活様式」も浸透してきています。

さらに、これまで経験したことのない在宅勤務や分散登校への取り組みも講じてきました。各校では、短い期間の中で遅滞することなく対応に取り組んで来られたことと思います。

規模を縮小しながらろうじて実施できた入学式、運動会や宿泊学習などの大きな行事等を中止や延期とした1学期前半。私たちも子ども達も保護者もこれまでにない経験のた

め、手探りの状況が続いています。

こうした状況の中、両沼小校長会では、臨時休業中や中長期を見通した様々な対応について、数回アンケートをとることで情報交換の機会としました。地区内の各校各町村の動向等が把握できるだけでも校長先生方の学校経営の参考になるのではと考えました。

緊急事態宣言解除後、段階を踏みながら普通授業が再開され、学校に子ども達の元気な声が戻ってきました。私たちは、新型コロナウイルスからかけがえのない子ども達の健康と安全を守らなければなりません。

まだ新型コロナウイルスに対する特効薬や効果的なワクチンが開発されたわけではありません。継続して新型コロナウイルスを「正しく恐れる」ことは大事です。

先日、全国の花火師の会の方々が、人々に少しでも上を向いて明るい気持ちになってほしいとの願いから、全国一斉に同じ時間に花火を打ち上げるという試みがありました。

そして本県でもエアレースパイロットの室屋義秀さんが県内の上空を飛び、白のスマークで笑顔のマークを描きました。この大空の軌跡を見上げた県民から歓声があがったというニュースが報道されました。

新型コロナウイルスへの対応はまだまだ手探りの状況が続いていますが、私たち両沼小学校長会は、共に連携しながら、子ども達の希望や夢をしっかりと育んでいきたいと考えます。

両沼の思い出

元気な子どもたちと

会津若松市立神指小学校 大西 恒夫

両沼校長会の皆様には、2年間大変お世話になりました。久しぶりの両沼地区での勤務ということで、何も分からない私に、いろいろとご指導、アドバイスをいただき、何とか勤め上げることができたと感謝しています。両沼地区校長会のあたたかい、アットホームな雰囲気に、居心地よく過ごさせていただきました。学校で対応に難しいことがあっても、相談できる仲間がいることの心強さを十分に感じ、そのことに甘えながら過ごしてきたように思います。

今年度は、昨年度末からの新型コロナウイルスの対応に追われ、通常の教育活動もままならない状況に、どのようにして校長としてのリーダーシップを発揮していけばよいのか考え続ける毎日が続きました。そんな状況の中でも、前任校での経験を生かしながら、新たな職場で様々なことに対応しているところです。

神指小学校は、130年を超える歴史を持つ伝統ある学校です。児童数は、87名という小さな学校ですが、子どもたちは、元気いっぱい、朝や下校時には、校舎前から職員室に向かって大きな声であいさつする声が聞こえてくるような学校です。学校の周辺には田畑が広がり、東側には、雄大な磐梯山を臨むことができる素晴らし環境の中にあります。そして、そのような環境に合わせるように、のびのびと育っている子どもたちがいます。まずは、児童全員の顔と名前を一致させるために、記憶力をフルに使って名前を覚えようと励んでいるところです。



神指小から臨む磐梯山

居場所をいただいたことへの感謝

喜多方市立第三小学校 笠原 聡

「チーム西山が、わたしに校長としての居場所を与えてくれました」

これは、西山小学校で、先生方に離任のあいさつをしたときの言葉です。

これは、ボクシングの世界チャンピオン村田諒太選手が、チャンピオンに返り咲いた試合後のインタビューに答えた「チーム帝拳が、ぼくにまた居場所をくれました」から借りた言葉です。

平成30年4月に柳津町立西山小学校に新任校長として赴任しました。教頭経験も少なく、行政から学校現場へ戻っての校長職ということで、緊張の連続でした。また、「わたしのような者に校長が務まるのだろうか」という不安も常にありました。

しかし、そんなわたしが、西山小学校での2年間を無事(?)校長として務めることができたのは、西山小学校の全職員、保護者、地域の方々のおかげだと感謝しています。未熟な校長の考えを理解し、そして実践し、学校運営を支えてくれた“チーム西山”があったからこそ、校長でいられたのだと思います。

また、柳津町校長会や両沼小学校長会において、和やかな雰囲気で、温かく支えていただき、気軽に相談することができたということもあります。皆様に出会うとホッとすることができました。皆様には感謝申し上げます。

両沼校長会でいただいたご指導を生かし、新たな勤務地で頑張っていきます。2年間本当にありがとうございました。



西山小学校



第三小学校

両沼の思い出

感謝の気持ちを力に

本宮市立岩根小学校 児山 秀典

校長として着任した平成29年4月1日からの数日間は、町教育委員会や先輩校長先生方の励ましの下で、落ち着いてスタートを切ることができました。しかし校長会総会で事態は一変。学校図書館、学校給食研究会、小教研等々、目の前に迫った各総会の準備に迫られることとなり、正直大変焦りました。「前任者に尋ねることなく調べて対応する」ことをささやかな感謝と敬意と考えて取り組み、なんとか各会運営のスタートにたどり着くことができたことを思い出します。平成30年度からは、両沼地区小学校長会研究部長を仰せつかり、役員・研究部はもちろん、全ての校長先生方のご理解・ご協力と多大なる励ましをいただき、令和元年度までの2年間、なんとかその務めを果たすことができました。気さくに悩みや不安を口にでき、本当に居心地のよい、あたたかい両沼地区小学校長会での三年間は、生涯忘れ得ない貴重な時間であったことは間違いありません。心から両沼地区小学校長会の皆様に感謝しています。本当にありがとうございました。

現任校の児童数363名。児童数15名の経験しかない私にとっては不安の尽きない毎日。そこへ新型コロナウイルス感染防止対応と、「変化の激しい社会」を違った意味でも強く実感しているところです。日々、市教委や関係機関、そして保護者と連携をしながら東奔西走の毎日ですが、両沼地区校長会の思い出を胸に、子どもたちの安全安心な学校づくりを最重要課題として頑張ります。

両沼地区小学校長会の益々のご発展と校長先生方のご多幸を心よりお祈り申し上げます。大変お世話になりました。



本宮市の花：百花の王「牡丹」

ありがとうございました

会津美里町立本郷中学校 小川 茂樹

昭和小学校に新任校長として赴任し、はや2年間、両沼小学校長会の皆様には、常日頃から温かくご指導賜り、昭和小学校における任を無事終えることができました。本当にありがとうございました。

村内には、小学校が本校にしかないため、些細なことから両沼小学校長会の皆様には気軽にお電話申し上げ、相談に載っていただきました。特に、研究部では県大会発表に割り当たっており、両沼の全教職員対象アンケートを実施していただいたり、テーマに向けての取り組みを推進していただいたりと大変ご面倒をお掛けしてしまいました。様々な学校規模での取り組み、そして豊かなご経験によるご助言やご指導は、本当にありがたく意図的計画的で組織的な学校経営について学ばせていただきました。

また、全ての校長先生方と一緒にさせていただいた東京電力福島第一原子力発電所での研修は、個人では経験できない充実したものでした。福島県の教育に携わるものとして本当にありがたい研修となりました。企画していただいた神内小学校長会長様、役員の皆様には深く感謝申し上げます。

残念ながら異動により両沼小学校長会からは離れましたが、変わらずに両沼小中学校長会でお世話様になりますので、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。いろいろと大変な2年間でしたが、温かく受け止めご支援いただける皆様がおられるという気持ちでがんばることができました。改めて深く感謝申し上げます。そして微力ですが何かありましたらお声かけいただければと存じます。



両沼地区に転入して

「高田小学校に赴任して」

会津美里町立高田小学校 金成 和彦

4月1日に人生最後の赴任先となる高田小学校に赴任しました。

両沼地区に、そして会津美里町に勤務するのは初めてなので、分からないことばかりで、戸惑うことが多いのですが、何とか現在を迎えております。

新型コロナウイルスの蔓延により、学校が休業になる前、たった2週間でしたが、朝、道路に立って交通指導をしていますと、子どもの方から「おはようございます」と元気に挨拶をしてくれます。その声を聴くと、「よし、今日も頑張るぞ」という気持ちが湧いてきます。また、とても素直で、教師の指示をしっかりと聞き、お願いしたことを必ず、自分たちの姿として表現します。

保護者の方々も、学校に対してとても協力的です。まだ、今年はPTA活動が本格的に始まっていませんが、協力的ですと伺っておりますし、授業参観にも、ほとんどの方が参加するとのことでした。

地域の方々も、教育に対して関心がとても高く、学校の教育活動がうまく機能するように見守ってくれています。

また、先生方も、教育活動に自分から進んで関わり、子ども達をしっかりと変えるために朝早くから夜遅くまで勤務しています。

高田小学校が目指す、具体的な子どもの姿「賢い言動」「確かな学力」「心身の健康」を合い言葉に、保護者、地域の方々、先生方と協力して、今以上の子ども達を育てていきたいと思っております。



編集後記

田植えが一段落し、青田をわたる風がさわやかに感じる季節になりました。

令和2年度が、どうにかスタートできたかと思えば、2週間で臨時休業。6月に入り、ようやく本格的に学校が動き始めたことに喜びを感じています。

両沼小学校長会では、4名の転入・新任の校長先生方を迎えスタートすることができました。両沼小学校長会広報部におきましても、皆様方のご協力により、ここに『広報両沼』第132号をお届けすることができました。ご多忙の中、原稿をお寄せくださいました先生方、本当にありがとうございました。

本号では、神内透会長が巻頭を飾り、転出されました4名の校長先生方から玉稿をお寄せいただきました。また、新たに両沼地区に転入されました金成校長先生から所感をいただきました。本当にありがとうございました。

今年度は、年度当初から臨時休業となり、学校が機能していない状態での原稿依頼となってしまいました。第132号は、内容を縮小しての発行とはなりましたが、校長先生方の個性あふれる文章をご一読していただければと思います。

これから第1学期のまとめの時期を迎えますが、今後も新型コロナウイルスへの警戒が続き、終息にはまだまだ時間を要することと思います。危機感を緩めることなく、両沼小学校長会としても感染防止に努めてまいりたいと思います。校長先生方には、ご自愛の上ご活躍されますようお祈りいたします。

令和2年6月

両沼小学校長会広報部第132号担当
勝常小学校 五十嵐喜浩